

おたがいサマサマ わやくちゃチャチャチャ 2025年1月28日放送分

ナレーター：おたがいサマサマ わやくちゃチャチャチャ

♪俺たちの明日／エレファントカシマシ

ナレーター：この番組は、グッドニュース情報発信塾の提供でお送りします。

のぶ：皆さんこんにちは。手話エンターテイメント発信団 oioi の“のぶ”です。

りよーじ：“りよーじ”です。さあ、今月から始まりましたこの番組、毎月月替わりで様々な背景、様々な価値観を持った出演者が自ら企画し、自らゲストまでブッキングをして、勝手気ままなおしゃべりと好きな音楽をかけちゃおうというものです。

のぶ：おお。では、改めて今一度自己紹介をさせてください。
僕は手話エンターテイメント発信団 oioi の“のぶ”です。

りよーじ：“りよーじ”です。

のぶ：よろしくお願ひいたします。

りよーじ：お願ひしまーす。

のぶ：さあ、あつという間ね。早いものだけど、今回は、僕らが担当するのが最後になるんですよ。

りよーじ：早いですね。

のぶ：この3回を振り返ってみてどうですか？

りよーじ：どうですか。ちょっと話し足りないことありませんか？

のぶ：ありますね。なんか始まってみたら10分と、ほんまあつという間やし。

りよーじ：あつという間。

のぶ：でも、残りの時間のこと気にしながらしゃべらないといけないし、結構緊張するよね。

りよーじ：そうですね。プレッシャーがね、ありますよね。

のぶ：でもこの緊張感が、結構楽しかったりするなとも思いますね。

りよーじ：いいですね。

♪★、👉、♪ (～♪)

のぶ：おお。

りよーじ：なんかあれですね。出ましたね。「改めて僕たち oioi が、リスナーの皆さんに訴えたいこと、お願ひをしたいこと」ということなんですが、なんかありますか？

の ぶ：そうですね。前はちょっと「バリアクラッシュ」の話がね、途中で終わっちゃったという感じがあるので。

りよーじ：そうでした。

の ぶ：僕たちが考えるバリアクラッシュって何なのかっていうところを、もうちょっとお話ししたいなって思いますよね。

りよーじ：はい。

の ぶ：僕たちが理想とするのは、当然きこえる人ときこえない人の間に、もう心の壁がない社会を目指してるんですけども、具体的に言うと、手話が溢れていて、きこえる人ときこえない人が、何の気兼ねもなく、楽しそうに普通に喋ってる、そういう社会を作っていきたいと思ってるんですね。

りよーじ：そうですね。

の ぶ：これを実現するために、僕たちは、「楽しい」っていう、楽しいエンターテインメントの要素をまじえながら、この手話という言葉が世の中に広めていきたいなと思ってるんですが、なんか今考えているのは、それだけじゃなくて、「手話の価値」手話のブランディングっていうのをやりたいなって思っています。やっぱり手話っていう言葉を聞いた時に、結構多くの人たちが、「あ、自分には関係ないな」とか、「自分は使わへんな」とか、「覚えてもじゃあないな」とか、そういうふう思うことって結構いっぱいあると思うんですけども、やっぱり実際手話って、きこえる人が覚えてもいいところっていっぱいあると思うんですよ。

りよーじ：あります、あります。

の ぶ：ありますよね？

りよーじ：あります。

の ぶ：例えばね、表情が豊かになったりだとか、離れたところで会話ができるだとか、海の中でね、普段声を出さないと会話できないようなところでも、僕らは、手話だったらそういうの関係なく、どこでもお話をできたりするし。あとはね、手指をめちゃくちゃ動かす言語なので、こういうのをいっぱい使っていると、もしかしたら認知症の予防にも効果があるんじゃないかなと思ったんです。

りよーじ：そうなんですよ。結構ね、認知症の主な原因としては耳がきこえなくなってきた、コミュニケーションが取れなくなってきた、認知症が進むっていうことがやっぱり多いので、手指の運動もそうですし、将来、コミュニケーションに困らない、なんかそのやっぱ見て分かる言語なんで、耳がきこえにくくなっても、手話があれば、会話・コミュニケーションが続けられて、認知症の予防にも、つながるんじゃないかなっていうふうだね。

のぶ：そう。思いますよね。あとやっぱ、手話を使ってるよね、やっぱこう自然とフェイス・トゥー・フェイスな会話が増えるというのと、表情が豊かになるという、いいところがいっぱいあると思うんです。

りよーじ：ある、ある、ある。

のぶ：やっぱ声だけの会話を見てると、どうしてもノーラックトークみたいなのが増えたり、なんかこう自分に向かって話しかけられてるんだけど、
「はい、はい、はい」みたいな聞けなかったりとかね、結構あると思うんだけど、やっぱ手話の場合、お互いの、表情とか見ながらしゃべらなくちゃいけないし。きこえない人って、声の抑揚だけじゃ相手の感情わからないから、きこえない人にも自分の感情を届けようと思ったら、自然と表情っていうのが、つけないといけなくなるんですよね。これ結構すごく重要だなと思ってて、割と日本人って、シャイな方多いから、もう全然表情に出さないで喋る人多いんですよね。
で、そういう人って、たぶん周りから、「なんか機嫌悪いのかな」とか、「怒ってるのかな」とか「なんか、おもんないのかな」とか、たぶんね、いろんな誤解を受けてる部分とかあると思うんですよ。でも本当は、心の中では楽しいと思ってたり、嬉しいなと思ってたり、もしくは幸せやと思ってるかもしれないんだけど、残念なことにこれが表面に出てないという部分がいっぱいあると思うんですよ。これを、手話っていう言語を通して、もうナチュラルに、ハッピーな感情を表に出せるようになったら、それだけで周りの人たちもハッピーになると思うし、あとネガティブな感情というの、出していいと思うんです。日本人ってそこも素直じゃないから、本当は嫌なんだけども、嫌って言えへん。けど、嫌っていう顔せえへんから、大丈夫なんやって誤解されて、嫌なことをさせられるみたいなことが結構あるじゃないですか。そういったところも、もったいないから、プラスな表情も、マイナスな表情も、どっちもバンバン出していくってすごい大事だと思うんです。

りよーじ：はい。めちゃくちゃしゃべりますね(笑)。

のぶ：そう、そう、そう、そう。もうやっぱ最終回でね、伝えたいことっていうテーマから。

りよーじ：そうですね。めちゃくちゃありますよね。

のぶ：そうなんですよ。ちょっと黙ってられないなって。「手話を学ぶと得なことはなんですか？」っていう質問もいただいてるんですけど。

りよーじ：なるほど。得なことというか、僕自身は、手話って本当にコミュニケーションの楽しさを改めて知ることができる言語やなと思っていて。

のぶ：わかる、わかる。

りよーじ：なんかやっぱ、先ほども言ってくれてたみたいに、顔を見合わせずにコミュニケーション取れるけど、取れちゃうけど、なんか寂しい部分ってないですか皆さん。だからスマホを見ながら喋るとか、夫婦の会話が進んじやうとか。なんか、それもそれでコミュニケーション取れてるかもしれないけど、僕から見ると、ほんまに喋れてます？っていうふうに思うんですよね。

なんか、顔を見合って「あ、今のは伝わったな」とか「あ、これ伝わらんかったな」「あ、受け止めてくれてるな」みたいな、そういうのを1個1個確認しながらコミュニケーションをとっていくと、絶対コミュニケーションってめちゃくちゃ楽しくなると思うんですよね。

のぶ：わかる、わかる。あと実際に、僕らの手話講座を受けてくださってる、とあるファミリーの話になるんですけども。その方は、お母さんと娘さんが一緒に手話講座を受けてくださってて。

ある日、息子さんが家の中でずっとゲームをしてたらしいんですよ。それに怒ったお母さんが、声でガーって「もうゲームやめなさい、ちゃんと勉強しなさい」みたいなことを声でガーって言ったら、息子さんは全く反応してくれなかったらしいんですよ。それで、ある日お母さんが声を出さんと手話だけで怒ったんですよ。ほんなら息子が「え、え、なに？なに？おかんは何喋ってんの？」って逆に気になり始めて、一緒に手話の勉強してる妹の方に「おかんは何を言ってるの？」って聞いて、妹さんがお母さんの怒ってる内容を通訳して、「へえ」って。怒られてるんだけど、息子はただ話を聞いて「へえ」ってなって、こっから、お母さんが声なしで喋ると、息子は逆にちゃんと見て聞くようになったんです。

りよーじ：おお、すごい、すごい。

のぶ：そうなんですよ。こっから、お母さんが言うことをちゃんと聞くようになったらしくて、なんでそう変わったんですかって聞いたらしいんですよ。ほんなら、息子は、今までお母さんが声で怒ってくるのが鬱陶しかったらしい。

りよーじ：ああ、なるほど。

のぶ：声がうるさいから、聞いてると嫌になる。でも今のお母さんは、声を出さなくて、もう手話だけで喋ってくるから、なんか何言われてるか気になるし、聞きたくなるって言って、今めっちゃ聞いてるらしい。

りよーじ：おお、すごい。

のぶ：でもね、すごいのもってこっからなんですよ。勉強してるのは、お母さんと娘さんなんですけど、今勉強してない息子さんが、お母さんの手話を見て、自然と手話覚えちゃった。これ、すごくないですか？

りよーじ：すごい、すごい。

の ぶ：これなんですよ。やっぱ声だけのコミュニケーションではできない何か、手話にはあると思うんですよ。

りよーじ：いいねえ。

アラーム：時間です。時間です。

りよーじ：あれ？あれ？もう時間ですか？

さあ、ここで今カンペが出てまして「今後の僕たち oioi の活動予定を紹介してください」ということなんですけど、今年2月以降の予定ですね。もうなんといつても外せないのが、2月の22日。僕たちの自主開催イベント「オイトーク！」

の ぶ：「オイトーク！」

りよーじ：こちらは大阪で開催する、僕たちの活動のことだったりとか、今回もね、ラジオでもいろいろお話しさせていただいたんですが、話し尽くせなかった耳のきこえない人のお話とかっていうのを、いろいろリアルに皆さんにお聞きいただけるイベントがございます。

の ぶ：詳細はどこを見たら分かるんですか？

りよーじ：詳細は「oioi 手話」で調べていただければ、僕らのホームページがね、出てきますので、そちらでご確認をしてみてください。

の ぶ：2月以降はね、トークショーイベントだけじゃなくって、いろんなところを回ってワークショップ予定なので、ぜひぜひいろんな方に来ていただけたらいいなと思いますね。

りよーじ：そうですね。全国でいろいろ回りながら自主開催のイベント立てていきますので、楽しみにしててください。では、最後にリクエスト曲ですね。今日は？

の ぶ：はい。Mr.Childrenで「Sign」でございます。その理由は、僕が大学生の時に、聴覚障害者が主人公の「オレンジデイズ」というドラマがありまして、この時に流れていたのが、この曲だったんですね。これももう何回聞いても素晴らしい曲でして、聴覚障害でも楽しめるんじゃないかなって。あくまで僕の場合ですけどね。ぜひぜひ聞いていただきたい曲になっております。

りよーじ：はい。ではいきましょう。僕らが担当するのが今週で最後なんですけど、来月はどんな人がどんなお話をしてくれるのか、楽しみにしてください。

2 人：さようなら～！！

♪Sign／Mr.Children